

雲仙市ゼロカーボンシティ宣言書

近年、二酸化炭素をはじめとした「温室効果ガス」による地球温暖化が要因と考えられる異常気象によって、日本国内や世界各地で大規模災害が発生しています。雲仙市においては令和3年8月、人命が失われる甚大な土砂災害が発生しました。生命や暮らし、自然などに大きな影響を与える気候変動は、もはや遠い将来の問題ではなく、その対策は喫緊の課題となっています。

2015年に合意されたパリ協定では、「世界の平均気温の上昇を産業革命以前に比べて2°Cより十分低く保ち、1.5°Cに抑える努力をする」という目標が国際的に広く共有され、我が国は2020年10月、2050年までに温室効果ガス排出を全体としてゼロにする「2050年カーボンニュートラル」を宣言しました。

本市は、日本最初の国立公園である雲仙天草国立公園及び島原半島県立公園に指定され、橘湾や有明海を望む美しい海岸線や、普賢岳、雲仙地獄といった雄大な自然環境を有するなど、全国屈指の豊かな自然に恵まれています。

「自然」「人」「地域や近隣」との“つながり”を育み、この素晴らしい自然の恵みを将来にわたって守り引き継いでいくことは、今の私たちに課せられた責務です。

雲仙市では、地球温暖化問題に対応すべく、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする「ゼロカーボンシティ」の実現を目指し、再生可能エネルギーの最大限活用や省エネルギー活動などに、市民・事業者・行政の「オール雲仙」で取り組んでいくことを、本日ここに宣言します。

令和5年2月22日

雲仙市長

金澤 秀三郎